

特集：国際化と医療コミュニケーション

巻頭言

萩原 明人

九州大学大学院医学研究院

医学領域における初期の医療コミュニケーション研究は医師と患者のコミュニケーションが中心で、米国とヨーロッパで研究が展開された。米国での研究の一つの転機は、1980 年代にハーバード大学の研究チームが、ニューヨーク州内の公立病院を退院した患者を対象に、入院中の受傷事故の発生状況を調査した **Harvard Medical Malpractice Study** であった。当時、医事紛争の原因は医療の質の低さと考えられていた。しかし、入院中に医療者の過失によって受傷した患者のうち、実際に訴訟に至る例は全体の数パーセントに過ぎなかった。医療者の過誤による受傷を伴う医療は、云わば、「低品質の極み」と考えられる。それにも関わらず、訴訟に至る例が少ないことから、医事紛争の原因として別の要因が疑われるようになった。その後、医事訴訟を専門とする弁護士に対する聞き取り調査、患者の法廷での証言の分析が行われ、コミュニケーション不良が要因として浮上した。更に、州政府の医事紛争記録を用いたフロリダ州の産科医と患者を対象とした研究や、コロラド州とオレゴン州の内科医と外科医を対象とした研究から、医師-患者コミュニケーションが医事紛争の主たる要因であることや、医事紛争に関連する具体的な医師のコミュニケーション行動が明らかになった。

その後、医師-患者コミュニケーションは患者コンプライアンス、患者満足度、治療効果、医療費、在院日数等、当初予想しなかった広範囲の患者アウトカムと関連することが分かってきた。医師-患者コミュニケーションに関し、この 10 数年の間に多くのことが明らかになりつつある。医療コミュニケ

ーション学は新しい分野で、これから大きく伸びる余地がある。しかし、今後、新たな知見を獲得するには工夫が必要である。定量的なアプローチのみならず、仮説や問題を提示する際に力を発揮する定性的なアプローチによる検討も重要である。更に、健康行動学、社会学、心理学、言語学等との学際的なアプローチも必要になると思われる。

欧米では医療コミュニケーションに関する研究の必要性や重要性が広く認識され、非常に活発に研究が進められている。医学教育の専門雑誌 (**Medical Education, Postgraduate Medical Journal, Patients Education and Counseling**, 等) や社会医学系雑誌 (**Medical Care, Social Science & Medicine**, 等) ではほとんど毎回、総合一般系雑誌 (**BMJ, JAMA**, 等) や内科系雑誌 (**Archives of Internal Medicine, Family Practice, Family Practice Research Journal**, 等) でも相当頻繁に、医療者と患者のコミュニケーションに関する論文が掲載されている状況である。日本ヘルスコミュニケーション学会は医学、保健学、行動科学、看護学、コミュニケーション学、言語学、文化人類学等の研究者が中心になって立ち上げた学会で、学会誌はわが国で数少ない医療コミュニケーション学の専門誌である。学会設立から 10 年が経過し、今後はこの方面の研究を充実させることが重要である。日本ヘルスコミュニケーション学会誌が研究論文の発表の場として、ひいては、わが国の医療コミュニケーション学の発展に貢献できることを強く願っている。